

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【公表番号】特表2010-534200(P2010-534200A)

【公表日】平成22年11月4日(2010.11.4)

【年通号数】公開・登録公報2010-044

【出願番号】特願2010-516587(P2010-516587)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/0784 (2010.01)

C 1 2 N 5/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/0783 (2010.01)

A 6 1 P 37/06 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 3/10 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/06 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/00 A

C 1 2 N 5/00 2 0 2 M

C 1 2 N 5/00 Z N A

C 1 2 N 5/00 2 0 2 L

A 6 1 P 37/06

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 3/10

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 9/00

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 11/00

A 6 1 K 39/00 H

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月20日(2011.7.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ペプチド抗原を抗原提示細胞に標的化する方法であって、抗原提示細胞を、前記抗原を含む組成物とインビトロで接触させる段階を含み、前記抗原がCLEC9aに対して親和性を有する結合剤と結合しており、抗原提示細胞がCLEC9aを発現する、方法。

【請求項 2】

抗原提示細胞が樹状細胞であり、場合によって、樹状細胞が、MHCクラスI分子を介して細胞外抗原を交差提示することができる、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

CLEC9aに対して親和性を有する結合剤と結合しているペプチド抗原を含む組成物であって、場合によって薬学的に許容される担体をさらに含む、組成物。

【請求項 4】

静脈、筋肉内、腹腔内、経鼻、皮下または皮内投与用に製剤化される、請求項 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

医療方法において使用するための、例えば、前記抗原に対する免疫応答を刺激するのに使用するための、又は前記抗原に対する対象の寛容を誘導するのに使用するための、請求項 3 又は 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記抗原に対する免疫応答を刺激するための医薬の調製における、又は前記抗原に対する対象の寛容の誘導において使用するための医薬の調製における、請求項 3 又は 4 に記載の組成物の使用。

【請求項 7】

刺激される免疫応答がCTL応答、Th1応答、Th2応答、Th17応答、またはTreg応答である、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 8】

前記組成物がアジュバント、例えば、レチノイン酸、CD40アゴニストもしくはTLRアゴニスト、IL-1、またはTNF- と共に投与される、またはアジュバント、例えば、レチノイン酸、CD40アゴニストもしくはTLRアゴニスト、IL-1、またはTNF- と共に投与するために製剤化される、請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 9】

前記抗原が結合剤と共有結合しており、例えば、前記抗原および結合剤が同じペプチド鎖の一部である、請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 10】

結合剤がCLEC9aに特異的な抗体結合部位、例えば、少なくとも2個の抗体結合部位を含み、例えば、結合剤が抗体またはその機能的断片である、請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 11】

結合剤がCLEC9aのアゴニストである、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 12】

前記抗原が、病原体または寄生体により発現されるタンパク質、例えば、ウイルスタンパク質、または癌細胞のタンパク質、例えば、腫瘍特異的抗原のペプチドである、またはこれを含む、請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 13】

前記応答がTreg応答であり、前記抗原が、それに対する望ましくない免疫応答を阻害または抑制することが望ましいものである、請求項 7 に記載の方法、組成物または使用。

【請求項 14】

医療方法において使用するための、例えば、免疫応答の阻害において使用するための、CLEC9aをコードするmRNAまたはDNAにハイブリダイズすることができる核酸またはそのアナログ(例えば、アンチセンスRNAもしくはDNA分子、siRNA、またはリボザイム)を含むCLEC9aアンタゴニスト、または
CLEC9aに対して親和性を有する結合剤。

【請求項 15】

免疫応答を阻害するための医薬の調製における、

(i) CLEC9aをコードするmRNAまたはDNAにハイブリダイズすることができる核酸またはそのアナログ(例えば、アンチセンスRNAもしくはDNA分子、siRNA、またはリボザイム)を含むCLEC9aアンタゴニスト、または

(i i) CLEC9aに対して親和性を有する結合剤の使用。

【請求項 1 6】

CLEC9aに特異的な抗体結合部位、例えば、少なくとも2個の抗体結合部位を含み、例えば、結合剤が抗体またはその機能的断片である、請求項 1 4 または 1 5 に記載の結合剤または使用。

【請求項 1 7】

阻害する免疫応答が、炎症又は自己免疫状態、特に望ましくないCTL活性を特徴とする状態、例えば、

免疫成分による関節リウマチおよび他の種類の慢性または急性関節炎または関節症、全身性エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、自己免疫性(特にI型)糖尿病、甲状腺炎、ならびに乾癬を含む他の臓器特異的免疫疾患を含む自己免疫疾患；

多発性硬化症、重症筋無力症、および他の免疫介在性神経疾患を含む神経疾患；

クローン病、大腸炎、セリアック病、および肝炎を含む胃腸疾患；

アテローム性動脈硬化症、心筋症、リウマチ熱、心内膜炎、血管炎および他の免疫介在性心臓血管疾患を含む心臓血管疾患；

肺気腫、呼吸器気道感染症、および他の免疫介在性呼吸器疾患を含む免疫介在性呼吸器疾患；

喘息、鼻炎、および他の免疫介在性過敏性反応を含むアレルギー作用および過敏性反応(I、II、III、およびIV型)；

例えば、臓器移植、組織移植、輸血、骨髄移植中またはその後に起こる移植または移植片拒絶反応および移植片対宿主病；

敗血症性ショック症候群を含む感染性病原体に対する免疫病理学的反応；

小膠細胞などの免疫担当細胞に影響を与える神経変性過程などの変性過程から選択される状態である、請求項 1 4 から 1 6 のいずれか一項に記載のCLEC9aアンタゴニスト、結合剤または使用。

【請求項 1 8】

結合剤が抗体Fc領域を含む、請求項 1 6 に記載の結合剤または使用。

【請求項 1 9】

結合剤が、前記細胞を死滅させることができる毒素分子または前記細胞の近くでプロドラグを活性化することができる酵素を含み、例えば、前記酵素が非毒性分子を毒性分子に変換する、請求項 1 5 または 1 6 に記載の結合剤または使用。

【請求項 2 0】

試料をCLEC9aに対して親和性を有する結合剤と接触させる段階と、結合剤が結合している1つまたは複数の細胞を単離する段階とを含む、試料から抗原提示細胞を単離する方法であって、前記抗原提示細胞が、場合によって樹状細胞であり、さらに場合によってMHCクラスI分子を介して細胞外抗原を交差提示することができる、方法。

【請求項 2 1】

ペプチド抗原に対する免疫応答を刺激する方法であって、請求項 2 0 に記載の方法によって抗原提示細胞またはその集団を単離する段階と、前記細胞または細胞集団を前記抗原および場合によってアジュバントとインビトロで接触させる段階とを含む、方法。

【請求項 2 2】

対象に投与するために、例えば、細胞の由来である対象に再投与するために、細胞または細胞集団を製剤化する段階を含む、請求項 2 1 に記載の方法。

【請求項 2 3】

前記接触段階に続いて、前記抗原提示細胞を1つまたは複数のT細胞を含む自己由来細胞集団とインビトロで接触させる段階、及び場合によって、集団中のT細胞を増殖させる段階を含む、請求項 2 1 に記載の方法。

【請求項 2 4】

対象に投与するために、例えば、細胞の由来である対象に再投与するために、T細胞を製剤化する段階を含む、請求項 2 3 に記載の方法。